1、園の教育目標

「健やかで 明るく 伸び伸びと」を教育目標とし、

- ・ 健康で明るい子どもに
- ・ よく考え、進んで物事をやりとげる子どもに
- ・ 心やさしく、思いやりのある子どもに
- ・ すなおで、のびのびした子どもに
- ・ きまりを守り、物を大切に使う子どもに

子どもたちが集団生活を通してたくさんの体験ができる豊かな環境を作るよう取り組む。

2、本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

3、昨年度の自己評価で見つかった取り組むべき課題

個別項目

- ・ 子どものなかに感染症が発生したとき、発生状況や予防対策などをすぐに全保護者に連絡していますか
- ・ 一人一人の子どもについて、家庭での養育方針などを知っていますか

領域「環境」

- ・ 生活のなかで様々なものに触れながら、その性質や仕組みに興味や関心がもてるように、環境を工夫していますか

領域「表現」

- ・ 美しいものや心を動かすものに触れ、イメージを豊かにできるような機会をつくっていますか

4、評価項目の職員自己点検平均値

(1) 子ども一人ひとりの人格を尊重しないかかわり			
一日の流れ		「良くない」と考えられるかかわり	平均
登園時	1	朝、母親に抱かれて、なかなか離れられない子どもに「ずっと抱っこしてもらっていると恥ずかしいよ」と言葉をかける。	2.6
日 中	2	製作活動で子どもが描いた作品をみて、「そこ違うよ。もう一枚描いてみる?」とだけ言って、描きなおすように働きかけた。	3.0
	3	排泄の失敗への対応をその場で行ったり、周囲に知らせたり、その失敗を責める言葉がけをする。	2.7
	4	子どもが、友だちをたたく等、良くないことをした際に、執拗に責めるような言葉がけをする。	3.0
	5	子どもが保育者に話しかけた際、「いま忙しいから後にして」と言う。	2.1
	6	苦手なことを渋っている子に、「早くやって。できないなら後ろに行つて。」と言ったり、他者と比較したりなど、否定的な言葉がけをする。	2.9
昼食時	7	食事の際、こぼす等の理由で、テーブルに給食のメニューをすべて配膳せず、食べた次のおかずをあげる。または、こぼすたびに叱りながら食べさせる。	3.0
降園時	8	お迎えに来た保護者に「A君は、今日はケンカをしてお友だちを泣かせてしまいました」と、他の保護者にも聞こえるように言う。	3.0
その他	9	子ども同士のトラブルが起きたとき、子どもたちの言い分を聞かず、一方的に判断を下す。	2.9
その他	10	自分から訴えてトイレに行くことができるようになった子どもに対して、「おしっこ出ない」と訴えていても、トイレに行くように促す。	1.5
(2) 物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉がけ			
日 中	1	集団行動をするための言葉がけをした際、言葉がけを聞かない子どもに「○○しないなら○○できないからね」と言葉をかける。	2.2
昼食時	2	ごはんをこぼした子どもに対して、床に落としたものを拾って食べるように促す。また、ほかの子どもが大勢いる前でそのことを指摘する。	3.0
その他	3	どなったり、「○○しなさい」との言葉や子どもが怖がるもの(鬼等)を使ったりして、子どもを保育者の思いどおりに動かそうとする。	2.9

(3) 罰を与える・乱暴なかかわり			
日 中	1	子どもの人数チェックをする際、子どもの頭を手ではたくようにして人数を数える。	2.9
	2	並ぶときなどに、子どもの自発的行動を待てず、腕を掴んで引っ張る。	2.2
	3	子どもを注意する際に、「だめよ!」と言って子どもの手を叩く。	3.0
その他	4	保育者が子どもに注意をしたが、言うことを聞かなかった子どもに対し、廊下に立たせる、散歩に行く際に置いて行こうとするなどの罰を与える。	2.9
(4) 一人ひとりの子どもの育ちや家庭環境を考慮しないかかわり			
降園時	1	いつも時間ぎりぎりのお迎えになる子どもに対して、「〇〇ちゃんのお母さん、今日も遅いね」と言う。	2.9
その他	2	登園が遅い、服が汚れている、お風呂に入っていない、提出物の遅れ等の際に、子どもに「また〇〇君のお母さん忘れたの。いつも忘れて困るね。」や「昨日お風呂に入れてもらわなかったの。」など否定的な言葉がけをする。	3.0
その他	3	いつもぎりぎりの時間にお迎えにくる保護者に「いつもぎりぎりですね」と言ったり、保護者が提出物を忘れた際に「いつも忘れて困ります」と言ったりする。	3.0
	4	「お休みの日にどこに行ったかお話して」との問いかけについて、クラスの子どもたち『全員』に発表してもらう。	2.6
(5) 差別的なかかわり			
登園時	1	挨拶をしてきたか否かにかかわらず、特定の子どもにだけ「おはよう」と言葉がけをする。	3.0
日 中	2	いつまでも泣いている男の子に、「男の子だからいつまでも泣かない」や、乱暴な言葉使いをする女の子に「女の子だからそんな言葉を使ったらいけない」と注意する。	2.9
昼食時	3	少食の子に対して、子どもの意見を聞かず、初めから非常に量を少なくして配膳する。	2.3
降園時	4	クラス全員で帰りの支度をしている時に、なかなかできない子どもに、「〇〇ちゃんは早くできないのね、だめな子になっちゃうよ」と言う。	3.0

5、自己評価の評価結果

結 果	内 容
2.8	職員が、一つひとつの行動、言葉がけに、人権上配慮を確認し、特に平均値の低い項目について、今年度の月案等に反映させて、保護者との連携のもと幼児との信頼関係を築き、よりよき幼児教育の充実向上を図る。

6、今後取り組むべき課題

<p>平均値の低い項目</p> <ul style="list-style-type: none">・子どもが保育者に話しかけた際、「いま忙しいから後にして」と言う。・自分から訴えてトイレに行くことができるようになった子どもに対して、「おしっこ出ないと訴えていても、トイレに行くように促す。・集団行動をするための言葉がけをした際、言葉がけを聞かない子どもに「〇〇しないなら〇〇できないからね」と言葉をかける。・並ぶときなどに、子どもの自発的行動を待てず、腕を掴んで引っ張る。・少食の子に対して、子どもの意見を聞かず、初めから非常に量を少なくして配膳する。

7、学校関係者評価委員会の意見

<p>かぶと虫や鈴虫等を、毎年成虫になるまで飼育できていることに、感心していただいた。行事を通じて、園児の成長を感じる。また自由保育の時間は、楽しみにしているようだとおっしゃっていただいた。</p> <p>家庭での言葉がけについても、適切な言葉を選ぶ必要性をお話しいただいた。</p>
--

8、具体的な園の取り組み

<ul style="list-style-type: none">・研修に積極的に参加して、園に帰って必ず実践する。・ポートフォリオを通じて、保護者に説明する力を教員が培う。・不適切保育については、何が不適切にあたるのか、ボーダーラインを各教員ができるだけ明確にイメージを持って保育に当たるよう文科省、大阪府の指示をよく把握する。・家庭状況報告書や保護者アンケートなどを通じて、保護者の養育方針をよく理解する。